



特集 市制施行 20 周年記念  
**これからも もっと  
 ずっと いわた**

磐田市市制施行から 20 年。このまちは、ここで暮らし、笑い、悩み、歩んできた一人一人の人生と共に育ってきました。

夢に向かって挑戦する人、まちを育て、見守ってきた人、そしてこれからの未来を歩む人。それぞれの思いが重なり合い、今の磐田市があります。

この特集ではこれまでを振り返りながら、「これからも」「もっと」「ずっと」続いていく磐田市のこれからの、市民の方々の声とともに描いていきます。



# そして 未来へ

市では、平成27年度に、10年後の自分や家族などへ向けたメッセージを送る事業を実施しました。今回は、10年を経てそのメッセージを受け取った方から募集したエピソードの一部を紹介します。



## 佐藤 優衣さん

大阪で介護福祉士として働く佐藤さん。磐田市で生まれ育ち、デイサービス施設で働いたのち、さらなる成長を求め大阪へ。10年前の自分からの手紙には、「夢を叶えたか」を問うような言葉がありました。

## 10年前の夢を叶えた今 また一歩先の自分へ

### 夢の原点

介護福祉士になりたいと思ったのは、小学生の頃でした。叔父が入所していた老人ホームで、職員の方と利用者の方が楽しそうに話し、一緒に笑い合っている姿を見て、「人と人が関わりながら、こんな風に過ごせる仕事があるんだ」と憧れを抱きました。もともと人と話すことが好きだった私にとって、その光景は強く心に残っています。

10年後の自分へ

2人ともいかり自分のなりたい職業に入っていますか？

10年前の自分より

▲ 10年前からの手紙（一部抜粋）



「もっと成長したい」「思いが私を動かした」

「自立したい、独り立ちしたい」という気持ちから、大阪へ行くことを決めました。今は生活全般を支える高齢者住宅で働いています。デイサービスでの経験を生かしながら、介護の基本を改めて学び、さらなる経験を積みたいと思います。この職場を選びました。

介護の仕事は、人によって正解が違います。したいことも、苦手なことも、介護の度合いも一人一人違い、難しさを感じる場面も多いですが、その人に合ったサポートができて、笑顔になってもらえたときの喜びは何ものにも代え

がたいです。介護の目指すところは、その人らしく過ごしてもらおうこと、その人が望む姿や生活に近づけるよう支えることだと思っています。もっと技術を身につけて、信頼される介護福祉士になることが今の私の目標です。

### いつかまたこのまちで

介護の現場では、知っている土地だからこそ生まれる会話や、遠州弁での会話だから感じられる温かきがあります。磐田を離れて、初めてそのことに気づきました。磐田駅に降り立つと「帰ってきたな」と思います。見慣れた景色は心を落ち着かせてくれますし、慣れ親しんだ土地はとても過ごしやすいです。

大阪でたくさんさんのことを学び、いつか成長した姿でまたこのまちに戻りたい。そして、磐田の人たちがその人らしく過ごせるように支えたいと思っています。そのために、私はこれからも、もっと努力し続けていきます。

# 10年前の私から今、



## 10年前 よりも幸せ

鈴木 恒夫さん  
栗田 理恵さん・暖士朗くん

当時、この企画を知った娘 理恵さんは、父 恒夫さんに参加を勧めました。恒夫さんから家族へ、家族から恒夫さんへ送られた手紙は、お互いを思い合う、愛が詰まったものでした。

## 病気を乗り越えさらに深まる家族の絆

### 娘から父へ ずっと変わらない感謝

10年前、父は心筋梗塞で倒れたことをきっかけにすっかり弱気になり、私たち家族もこれからの父の体調に不安を感じるようになりました。そんなときに10年後へのメッセージ企画を知り、父に、可愛がってくれている孫へのメッセージを願いました。

今年、手紙が届くと、父は孫だけでなく私たち子どもや母へも手紙を送ってくれていました。孫へのメッセージには、「もっと一緒に遊びたかったな」という言葉。自分がこの世にいないかもしれない、そんな不安を抱えながらも綴ってくれた、父から家族一人一人への愛が溢れるメッセージがそこにありました。

幸せなことに、父は病気を繰り返しながらも今も健在です。10年前と変わらず家族みんなの仲が良いこと、

当時3人だった孫が、今では7人に増えたこと。歳月を重ねましたが、父が10年前より幸せだと感じてくれていたらうれしいです。

私たち家族からも、父へ手紙を送りました。今までも、そしてこれからも、ずっと変わらない父への感謝の気持ちが届いてほしいと思います。これからは、私たち家族みんなが両親の幸せを支えていきたいです。

### 父から娘たちへ 優しい家族に恵まれて

10年前、心筋梗塞を思い、元々悪かった腰の痛みもあり、歩くのもつらい状態でした。これから自分の体はどうなるのだろうか、家族みんなに迷惑をかけないだろうかという心配を抱えながら、家族に手紙を書きました。いつまでも家族みんなと過ごしたいという願いを込め、楽しかった思い出や、未来に向けてのメッセージを綴りました。



今年、10年前に子どもたちが書いてくれた手紙が私の元へ届きました。温かい言葉の数々に、思わず涙がこぼれました。この10年、いろいろなことがありましたが、現在も仕事を続けることができています。孫の顔を見ているとき、家族みんなでご飯を食べているとき、心から幸せを感じます。優しい家族に恵まれ、10年前よりも、今が幸せです。

子どもたち、そして孫たちには、平和な世界で、これから家族みんな仲良く、元気に暮らして欲しいと思います。

# 二十歳の集い

## 磐田市と共に育った20年

磐田市市制施行と同じ年に生まれた子どもたちが、今年20歳という人生の節目を迎えました。1月11日、市民文化会館「かたりあ」で「二十歳の集い」が開催され、晴れ着に身を包んだ若者たちが、久しぶりの再会を喜び合いながら、新たな一歩を踏み出しました。

この世代は、磐田市と共に成長してきました。学校生活や地域行事を経験する中で、新型コロナウイルス感染症の影響により、思い描いていた日常が大きく変わる時期もありました。制限のある中で工夫し、支え合いながら過ごした日々は、それぞれの心に深く刻まれています。

二十歳の集いは、そうした歩みを経た今を、市全体で祝う大切な機会となりました。

### 子どもの頃を振り返って

母には、小さい頃から器用だったと言われます。小学生のときには、2歳年上の兄に負けたくない、兄がやっている勉強を一緒にやったり、兄の影響でバスケを始め、一緒に練習したりしていました。中学生の頃には、友達からの推薦で生徒会副会長を務めました。人に頼られるとうれしくて、頼まれたことを引き受ける形で、良い役をたくさん任せてもらえた経験が今につながっていると思います。高校では、勉強で挫折を味わいました。それでも朝早く学校に行って勉強する習慣をつける

ことや進路などを、先生が提案してください、導いてくださいました。現在は県外の大学に通っています。磐田に帰ってくると、空が広いと感じます。地元の方が話しかけてくれて、温かく懐かしい気持ちになります。

### 将来の夢

大学では、生命工学を学んでいます。生物が持つ多様な機能を解明し、応用を目指す学問分野です。まだまだ分かっていないことばかりの分野で、初めて知ることや最先端の研究に日々わくわくしています。そうした中で、研究成果が身近な製品とし

て形になり、生活の中で人の役に立っていることを実感できる、そんなものづくりに関わりたいと考えるようになりました。将来は微生物を用いた発酵食品や環境に優しい製品の開発に携わり、生活や健康の観点から人々を支えたいと考えています。

### 父への憧れ

ものづくりに興味を持つようになったのは、父の影響です。エンジンアである父の職場を見学したり、バイクや車の整備をする姿を見たりした際に、楽しそうにしている姿を見て憧れを持ちました。父が、「自分が作ったバイ



二十歳の集いで「決意の辞」を述べた出口さんにお話を伺いました。



# 20年前の私から 今、そして 未来へ



人を  
支えられる

でぐち ひいろ  
出口 陽彩さん



クが走っているのを初めて見た時、とても感動した」と言ったことがとても記憶に残っています。いつか私を作る製品が身近にあって、いろいろな人が手に取っているのを見る日がくるといいなと思います。

## 20歳の誓い

私は磐田で育ち、20歳を迎えるまで、本当にたくさんの人に支えられてきました。いつも私の意見を尊重し、支え続けてくれた両親。長所を伸ばし、間違いを正してくれた先生方。楽しいときも苦しいときも共にいてくれた友人。温かく見守ってくださった地域の方。こうした支えがあつてこそ、私は今ここに立つことができています。関わってくれた全ての人に感謝しています。まだまだ支えられることばかりですが、成長して、今度は私が人を支えられる人になりたいです。

20年間、近くで見守ってこられたお母さんにもお話を伺いました。

## 何色にでも輝ける

20年間、このまちの人や自然に見守られ、健康にここまで育つてくれて、ありがたいと思います。素直で明るい友達や導いてくださった先生など、本当に周りの人に恵まれました。

「陽彩」という名前は、太陽の光が反射して虹になるように、何色にでも輝けるという思いを込めて付けました。自分で決めた道、悔いのないように人生を歩んでくれたらと思います。

## 思いと共に描く未来

夢を叶え、さらなる挑戦を続ける方。何年経っても変わらない絆を育んできた家族。そして、市と共に20年を歩んできた方。それぞれが歩んできた道は違っていて、それぞれに「このまちで紡がれてきた人と人のつながり」や「このまちを大切に思う気持ち」がありました。

小さな頃から見てきた日常の風景。変わらずそこにある安心できる居場所。挑戦を支える人の温かさ。そうした積み重ねによって、磐田市は20年の歴史を刻んできました。

これからの未来は、どんなものになるでしょうか。未来をつくっていくのは、特別な誰かではなく、今を生きる私たち一人一人です。20周年の歩みを胸に、磐田市のこれからのを、共に歩んでいきましょう。

「これからも」 続く歩みを  
「もっと」 広がる可能性を  
「ずっと」 変わらない思いを

